

オーライ! ニッポン大賞 審査委員会長賞

はちのへし あおばこ てんぼう こうりゅう しせつ やま がっ こう うん えい きょう ぎ かい
八戸市青葉湖展望交流施設 山の楽校運営協議会 (青森県八戸市)

農山漁村イキイキ実践部門



■受賞者の概要

活動年数：11年
活動日数：年間310日
活動を担う人数：20人（うち専属スタッフ8人）
売上実績：年間783,968円 累計約650万円
参加者数：年間55,455人、年間体験講座参加者4,864人、
累計●●人

■写真の説明

- ・(写真上) 山の楽校と仲間たち。
- ・(写真左下) そばとひまわりまつり。
- ・(写真右下) 焼畑農園火入れ。

■受賞の内容

青葉湖展望交流施設（通称：山の楽校）は、廃校を活用した交流施設である。山の楽校では、地域住民とともに子どもからお年寄りまで、地元南郷の特産でもあるソバを使ったそば打ち体験や手仕事の生活用具の製作等が体験できる。

活動のきっかけは、地区内の旧増田小中学校が廃校となったのを逆手にとり、地域の未来展望に向け地域一丸となり活性化を図るために65戸の全戸が参加した運営協議会を2005年に立ち上げたことである。

協議会では年間の活動スローガン「田舎っていいなあ！」を掲げ、以下の五本柱の下で事業内容を展開している。

①食育の推進 ②農育の推進 ③昔の伝統文化の継承 ④新しい文化の創造 ⑤あしたの楽校（山の楽校が南郷の文化、四季、言葉や習慣など南郷のよさを「あした」に向かって伝えていくプロジェクト）の立ち上げ。

今や体験内容はそば打ち、てんぼせんべい、梅漬け、彼岸団子作り、そば田んぼの栽培養成、焼畑農業などに広がり、そのほか地元の財産である人や地域資源を生かし年間60講座と7つの大きなイベントを企画している。また、地

元産山菜、野菜を農家レストランで提供するなど、田舎の知恵を活用した食事は来場者に大変喜ばれている。

山の楽校は今や市、県内はおろか県外客からも親しまれる施設となり、年間利用者数も右肩上がりが増えており、地域外から人の来訪に地域の人々も刺激を受けている。

こうした活動の成果として、加工グループで加工品（豆腐、味噌、梅漬け）を製造販売するにあたり、地域の農家（生産者）との豆腐の原料となる大豆等の契約栽培や保存食文化を活かした干し菜、りんご、干し柿等の製造販売は地元で経済波及効果をもたらしているほか、実証7年目になる焼き畑農業では、そこで採れた野菜、大豆、そば粉等を加工品にして、製造・販売している。

山の楽校は市内中心部から30分～40分の至近距離にありながらいきなり田舎を体験できる好立地条件にあり、心のやすらぎ、憩いの場として最適であると自信を持っている。このような恵まれた自然環境と昔から培ってきた田舎の文化、知恵を、自らできることを最大限に生かしながら楽しんで発信することにより、人々のつながりが生まれ、ひいては地域の活性化が図られることを確信している。



廃校となったことを契機に小さな集落65の全戸で運営委員会を立ち上げ活動しており、五本柱の事業方針も明確で年間60講座、七つのイベント企画、参加者数、活動日数などいわゆる限界集落のなかでの取り組みとしては効果的に継続されていると評価できる。